

能美市町会連合会とのタウンミーティング

日 時 令和5年9月27日（水）15時～16時

場 所 寺井地区公民館 大ホール

参加者数 80名

1. 開会

2. 市長講演

【市長】

・能美市政やそれぞれの町会・町内会の発展、福祉の充実等々にご尽力をいただいていることにお礼を申し上げます。

・今年は大変暑い夏で、熱中症警戒アラート、通常は15回から16回ぐらいだが、今年は33回も発表される大変厳しい暑い夏だった。

特に小学校の児童たちは、楽しみにしている夏休みのプールに入れなかった。いろんな行事を計画していたが、熱中症対策で一部制限したこともあった。

・一方、7月8月には根上り七夕まつり、辰口まつりを開催。過去最高の人数で賑わった。

○能美市の令和5年度予算編成

・私が市長になってから、すべての政策が移住定住の促進に繋がるということで進めている。自治体の勢いを示す数値というのはいろんな数値があると思うが、私は人口が増えていることが、その自治体の勢いを示す数値かなと思っている。

・人口が増える要素は2つある。社会増と自然増。社会増は、引越していく人よりも引っ越してくる人が多いと社会増になる。生まれてくる赤ちゃんよりもお亡くなりになる人が多いと自然減になる。

現在の能美市は、社会増と自然減で、少し人口が減ってきている。特に新型コロナウイルス感染症拡大時には、生まれてくる赤ちゃんが全国的に減ってきたことから、今は少し人口減の状況。

・7つの大政策事業をすべて移住定住促進に繋げることは、行政だけではなり得るものではなく、皆さんのお力添えが必要。能美市に住んでいるすべての皆さんが能美市のことを好き

になり、誇りに思えるようになり、ふるさとの創生にも取り組みながら、この移住定住の促進に繋げていくということで今年度もやっている。

・令和5年度は新たに5つの大目的・方針を掲げた。

一つ目が「災害対策」。これは昨年8月4日の大雨を受けて、しっかりと対策を施していこうというもの。

二つ目が「市民力・地域力の強化」。これは特にコロナ禍の状況により市民力・地域力が落ちてきたことを実感している。例えば、壮年団、婦人会・女性会の人数が最近減ってきている。ある町によっては解散してしまったという話も聞いている。いろんな行事をやっても集まる人が少ないという話も聞いている。この市民力・地域力をしっかりと取り戻していきたい。

三つ目が「知名度・認知度の向上」。今年は加賀立国・能美誕生1200年、そして来年の春には北陸新幹線県内全線開業するというこの千載一遇のチャンスを継続的に、そして他分野に波及させていきたい。私が東京に行って名刺を出すと『『のうみし』の市長さんですね』と、なかなか「のみし」と呼んでももらえない。全国には1700以上の自治体がありますけれども、この能美市という自治体名をいかに広めていくかということに取り組んでいる。

四つ目が「自然動態の増進」。いかに自然増にしていけるか。赤ちゃん、子宝に恵まれるように支援をしていこう、それから健康寿命を延ばしていこうというもの。

最後は「カーボンニュートラル」。現在のこの異常気象、地球温暖化と言われている。カーボンニュートラルに向けた取り組み。

こういったことをやるには、財源がなくてはできない。今年度予算は一般会計で268億2000万円、予算総額470億円で、過去最高。企業誘致が大変好調で、昨年度は過去最高の税収額だった。4年前は90億1500万円だったが、昨年度は90億9200万円。地場産業も大変好調。

○【災害対策】具体的な事業紹介

・昨年8月4日は1時間当たり86ミリという過去最高、経験したことのない大雨に見舞われた。市内では約170件の床上床下浸水約20ヘクタールの農地に水が入り、12ヘクタールの農地に土砂が入った。約2キロのイノシシ柵が壊され、鍋谷川の15の頭首工全部が破壊されるなど、甚大な被害に見舞われた。これに対して様々な対策をとっている。鍋谷川が注ぐ梯川の流れも良くしないと鍋谷川にも影響があるということで、両河川一体となった

水害対策を施す取り組みが始まっている。それから西川・熊田川でも、福島町や下ノ江町で冠水があった。手取川からの逆流を防ぐために、樋門を設置する工事が始まっている。

それから市内を流れる宮竹用水。大雨が降る予報が出た場合に、手取川からの取水を止めてしまう。そうすることで、宮竹用水を排水機能として使うことができるようになった。

市内に流れるいろんな川も今回は溢水してしまった。この内水被害を止めるために一部の護岸を高くするなどの工事を進めている。

- ・避難所も、今回いろんな課題が見えてきた。避難所のあり方を見直したり、避難所数を増やしたり、市内の三つの体育館に冷暖房装置を入れて暑い日、寒い日でも避難していただける取り組みも始めている。

- ・市内の監視カメラ、これも大幅に増設し、水がどれだけ増えているか、あるいはどれぐらいの雪が積もったかというようなことをしっかりと監視する体制の強化をし始めている。

- ・鍋谷川は、寺畠付近の川幅を約1.5倍にする工事が始まっている。梯川に注ぐあたりの川幅も広げ、堆積土砂も取り、同じような雨が降っても同じような被害が出ないように工事が進んでいる。

- ・西川では、川幅を倍にする工事に取りかかっている。

- ・治水プランの検討。今回の大雨で、能美市にある丘陵地からたくさんの雨が、平野部に流れてきたことが分かっている。実は能美市内には、直接海に注いでる川はない。全部手取川か梯川に流れ海に出ていくことから、能美市内に降った雨をいかにして流すかということが大事なポイント。対策を検討し始めている。

- ・ハザードマップの見直し。昨年大雨時、根上総合文化会館が指定避難所になっていたが、その周囲が冠水をしたことで行きづらかったという話があった。

- ・個別避難計画。これは町会長・町内会長の皆さんのご協力も必要。平日日中、多くの皆さんが仕事を行っていて、子供たちが学校に行っているとき、家の中にいるのが高齢者ばかりのとき、どうやって安心安全に避難させるかというようなことが大変重要になってくる。障がいを持っている人、自分で歩けない人など、そんな人たちをどうやって避難させるかということが個人避難計画であり、これを今少しずつ作り上げている。

また、自治体だけでは十分な避難ができないということから、事業所さんの協力をいただいている。具体的には、社屋を避難所にしていただく、あるいは見守りをしていただく、その会社が持っている重機を貸していただくなど、いろいろな協定を結んでいる。

- ・防災フェスタ。能美市が防災に対してどんな取り組みをしているか、どんな機器を持って

いるのか、避難指示が出たとき皆さんにどんな行動をしてもらいたいかということをつかりやすく楽しく知っていただく機会として開催した。

- ・町会・町内会でポンプ車を持っていて格納庫を作りたいという場合の補助の拡大を今年度し始めた。

- ・交通事故に対しては「ゾーン 30 プラス」ということで、これまで福岡小学校エリア、宮竹小学校エリアをゾーン 30 に指定した。両エリアに共通するのは、幹線道路通らずに抜け道をスピード出して通る車が多く見受けられる。今度は辰口中学校・辰口中央小学校エリアを対象に検討している。カーブが多かったり、道が狭かったりする箇所があるところでも安全安心に登校してもらえるように、今取り組みを始めている。

- ・学校の老朽化対策。市内には 11 の小中学校があり、面積比で築 50 年以上が 35% を占める。まずは、給食センター。子供たちに、安全安心でおいしい給食を食べてほしいということで、自校式で給食室の古い寺井エリアと根上エリアをまとめて、新しく給食センターを作り、給食センターから各学校へ配送するということになる。

- ・保育園は、今まで 15 すべて能美市の保育園だったが、幼児教育を受けたいという要望があったことから、まず福島保育園を民営化し、今度は湯野と緑が丘を民営化する。皆さんからもいろんなお声を聞きながら順次民営化も広めていきたい。それに伴って、園舎を新しくしていきたい。

- ・公民館や公園もかなり古い。根上総合文化会館は、年間で約 1 億円ずつぐらい投資をしながら整備している。皆さんの町会・町内会の公民館にも古いもの、手狭になってきているものがあるという声も聞いている。能美市として支援をさせていただくような制度設計にも取り組んでいる。

- ・上下水道について。下水道は市内に 430 キロあり、古くなってきてる。年間で直せるのは、資金的に約 10 キロ程度。全部直すのに 50 年。50 年後にはまた 50 年前に直したものを直さなければというような状況。道路、橋梁、看板も古くなってきている。

- ・案内看板もあり方はどんどん変わってきていて、今は車で目的地に行くときにはナビを使う人が多い。地図広げたり、看板を見ながら行く時代ではなくなってきてると感じる。案内看板の見直し・統合も始めている。

- ・災害対策では今、能美 LINE、のみメールを使っている。以前は、市から市民に避難勧告や避難指示を防災行政無線やホームページ、テレビなどでお伝えしていたが、例えば金沢市内で仕事をしていたら防災行政無線が聞こえないということから、現在は文字で情報を

流している。登録件数は現在 8000 件ほど。今日お越しの皆さん全て登録していただいていると思う。ぜひ家族や友人にも登録していただくよう宣伝していただければ。

○【市民力・地域力の強化】具体的な事業紹介

・それぞれの町の祭礼お祭りは大切。イベントもコロナ収束により毎週土日に関わるところでやっている。おかげさまで私の予定も今、夜は 11 月までほぼ毎日埋まっている。12 月はまだ開いているので、何か要望があってお誘いいただければお伺いしたい。

・文化芸術芸能。能美市は大変盛んなところ。8 月にあった現代美術展 6 部門すべての分野に能美市民の作品が展示されている。また、寺井地区公民館や辰口福祉会館などは毎晩予約でいっぱい。こういったことも奨励をしていきたい。

・スポーツの盛んなまちという感覚もある。市では横糸プロジェクトということで、市民の取り組みをしっかりとサポートするために、縦割りではなく市役所一丸となって市民の皆さんの取り組みを応援していこうということで頑張っている。

・SDGs。能美市は未来都市に認定をされている。SDGs の力を借りて市民の皆さんを応援していきたい。

・男女共同参画。女性にもっと活躍してもらえるような場所を作る。例えば、今度能美市で工場を設置する企業は、社員が 600 名いて、そのうち 7～8 割が女性。女性の働ける場所、女性の活躍できる場所をどんどん作っていきたい。

・今能美市の大きな課題の一つが人手不足。2 年後に新しく約 1000 人の雇用先が生まれる予定。その人材をどう確保していくか。女性にもっと活躍してもらいたいような場所も作ってきたい。

・市史の編纂を始めた。能美市誕生以来の歴史を文献的にしっかりと後世に残していく。

・7 月 21 日が加賀立国・能美誕生 1200 年。ふるさと歴史の広場リニューアルオープンも。

・10 月からいしかわ百万石文化祭が開催される。県内全域で開催をされ、能美市では 11 の事業を計画している。いしかわ百万石文化祭のコンセプトは、全ての県民。障がいをお持ちの方も、高齢者も。能美市の事業の中には、障がいをお持ちの方がパフォーマンスをする、あるいは障がいをお持ちの方が作った作品を展示するイベントもある。

○【知名度・認知度の向上】具体的な事業紹介

・「能美市大図鑑」という能美市の魅力をいろいろと発信しているホームページがある。能

能美市にはこんな人がいる、こんなおいしい場所がある、こんな働く場所がある、こんな遊ぶ場所がある、というようなことを紹介をしている。

- ・能美市観光大使・特使は今44名いる。この方々に力を借りて、いろんな宣伝をしている。能美市名誉観光大使の松井さんには、キャラクターとして宣伝に協力していただいている。

- ・能美市応援大使として、サンリオ人気キャラクター「シナモロール」を活用している。全国に能美市を発信していく。

- ・能美市移住アンバサダーが14名いる。アンバサダーの力を借りて、能美市の魅力をどんどん発信し、1人でも2人でも移住者を増やそうという取り組みもやっている。

- ・美味しいものは、能美市に来て食べてもらうということだけではなく、皆さんが親戚のところへ行くときにお土産として持っていく、あるいは皆さんの会社を訪ねてきた人たちにお土産としてお渡しする。そんなお土産品などを「能美ブランド」として認定している。

- ・「能美暮らしの家」は、主に移住したいと思っている人が、どうすればいいのかということとを相談する場所。ちょい住み体験も市内で2か所もできるようになっている。

- ・ギネスに挑戦ということで、今折り紙を皆さんに折ってもらっている。目標枚数は2万243枚。結構好調、このままいけば、抜けるのではないかな。ご協力いただければ。

- ・金沢21世紀美術館の一部を借り切って、九谷焼のフィギュアを並べる計画がある。期待している。

- ・松井さんのアニメキャラクターが出演するCMは、全国ニュースで何回も取り上げられた。松井さんが初めてアフレコを担当した。能美市の知名度がぐんと上がった。現在はイオンモール白山シネマで、映画が始まる前に、必ずこれが流れている。(現在は終了)

- ・ハード整備。ふるさと歴史の広場、能美根上駅の学習スペース、学習センター子ども宇宙科学室、パークゴルフ場クラブハウス、九谷焼美術館 | 体験館 |。アウトドアパークというのは根上の翠ヶ丘公園。ここをいろんなスポーツを体験できる場所に変えていく。辰口フラワーハウスの跡地は、道の駅機能を持った施設に変える。

- ・能美市に進出したいという声がたくさんある。市内のいろんなところに産業団地を開設していく。

○【自然動態の増進】具体的な事業紹介

- ・子育て支援。健康福祉センター・サンテをリニューアルした。サンテは、健康診断に来る人と、お子さんのいろんなことで相談しに来る人の場所ということで、健康診断とお子さん

んの相談を区別をして、両方の皆さんが心地よく過ごせるような場所になっている。

・給食費の無償化。物価高、エネルギー高、そして1人でも多く子宝に恵まれ、子どもを育みたいと思ってもらえるように取り掛かった。まずは市内の中学生を対象に9月から始めており、3学期からは小学校も始める。

給食を無償化にすると、1年間で約2億5000万円の費用が必要。来年度もこの給食費の無償化を持続させるために、この2億5000万をどうやって捻出させるか。間もなく予算編成を始めていく。

・企業誘致の好調を守るには、市内に住んでもらう場所も必要ということで、宅地開発も進めている。

・健康寿命の延伸。特に40代、50代の健康診断に行く人が少ないそうなので、そんな世代の人たちにも行ってもらえるように、いろんなPRをしている。

・地域医療体制。能美市立病院の医師・救護体制を充実させていこうということで、松任の病院等と医師の派遣を締結している。

・最近、いろんな悩みを持っている家族が多くなってきている。またお1人でいろんな悩みを抱えている方も多くなってきているということで、重層的にそういった形の相談をする、あるいは支援をする体制も整備をしている。

・それから健康ロード整備を進めている。健康ロードは、能美電が走っていた場所。今は桜並木道として大変親しまれている。ところが、桜の根っこが隆起して道がボコボコになっている、街灯のない場所も多いことから、整備し始めている。ただ全長16キロあるので、すぐには整備できない。完成年度を2025年秋、これはどんな年かっていうと、能美電が開通してちょうど100年、廃線になって45年、能美市が誕生して20周年を迎えている2025年秋の完成を目指して、やっている。

当時、駅があった場所の整備もしており、そこに看板を設置して、その近くにある名所等を掲示する予定。文字をたくさん記載すると大きな看板になるので、QRコードを使ってPRするようなことを考えている。

○【カーボンニュートラル】具体的な事業紹介

・2013年に排出をしていたCO₂を2030年に半分、2050年にゼロにしようという取り組み。実行計画を作っているいろんなことをやり始めている。会社でゼロカーボンに取り組みたいとき、こんな設備投資をしたいという会社に支援する、家庭にも支援する。木材会社で加工

したときに出るくずを全部捨てたのを、ペレットにして燃料として使うということで、いわゆる循環型の社会を目指す。給食センターに専用のボイラーを入れ、熱源に使ったり、電気を起こしたりするということをする。

- ・カーボンニュートラル化ガスを使うことによって、世界のいろんなところに木を植えてもらうという取り組みを支援する。

- ・能美市で考えているのは、太陽光パネルと蓄電池をセットにして使う形。太陽が照っていないときでも電気を供給できるような仕組みを作っていこうということをやっている。

- ・のみバスなどの公共交通を使うということもカーボンニュートラルにいい。今年度も根上地区と辰口地区の循環バス、連携バスの見直しを行った。

プラス北陸新幹線が開業すると、J R北陸本線がI Rに変わります。それに伴って能美根上駅のダイヤも変わるので、もう1回このバスのダイヤを見直す。

○デジタル化

- ・スマートインクルーシブシティ。インクルーシブというのは「地域共生社会」。誰1人取り残さない。障がいをお持ちの方も高齢者も、それから子どもも外国人も、能美市に住むすべての人たちがデジタルによって安心安全快適に暮らしてもらおうと考えている。各世代それぞれにいろんなデジタルの力を使い進めていく。

- ・例えば自宅でどんなことができるかということ、家電を設置して見守っていただく。最近の家電は喋る。空気清浄機が「おはようございます」「もう寝ましょう」「今、避難指示が出ました」など。空気清浄機のもう一つは、安否確認。動いてないと知らせてくれる。これを例えば、町会長・町内会長や民生委員・児童委員に知らせるような見守りを家庭・地域でできるようにしたいと考えている。

また、専用の腕時計をつけてもらうことで、脈拍や血圧を測って知らせてくれる。

- ・医療介護DX。病院にいた人が自宅療養になり、ケアマネージャーや民生委員・児童委員、救急隊が訪問したとき、今どんな薬を飲んでいるのか、これまでどんな病気にかかっていたのかということがすぐに把握できるように、そういった情報をデジタルでクラウドに入れておき、必要なときに必要な情報を取り出せるようにする。将来的には家でオンライン診療ができるようにしたいとも考えている。

- ・学校や児童館、保育園でもやっていきたい。例えば、保健室の先生と医師がコミュニケーションできるようにしたり、子どもたちが通学路を通ったかを確認できるようにしたり。

・デジタル公民館。皆さんの公民館でいろんなことができるようにしたい。例えば、オンライン診療、避難所として活用する際の受付簡略化、市役所の各種手続き、お店まで買い物に行かなくてもネットで予約すれば公民館まで運んでくれる、自動運転車による送迎など。スマートフォンが使えないという市民の声もたくさん聞いているので、スマホ教室を公民館で開催するなど、公民館をいろいろ活用させてもらい、デジタル化を推進していこうということも考えている。

・ゴミ出しアプリ。今日ゴミの日ですよという案内も来る。

・のみバス関連では、スマートフォンからダイヤルートの確認や、自分が乗りたいバスが今どこ走ってるか、どれだけ混んでるかがどうかが見えるようになっている。

・タブレットを町会長・町内会長、民生委員・児童委員、保護司さんに配布し、活用いただいている。他にもさらに広げていき、デジタルを使って、もっと楽にできるようにしたいと考えている。

・電子カルテの共有化。メーカーが違う電子カルテや、電子化されていないカルテを、同じ電子カルテにしようと考えている。どんなことがプラスになるかというと、例えばA病院に行き、いろんな検査、レントゲン、CTをすれば、別のB病院に行ったときは検査等が不要になり、時間も短縮され、医療費も安くなる。

・マイシティレポートというアプリ。道の陥没や壊れてるところの写真を撮って、すぐに送れるようになっている。能美 LINE から、そのアプリが登録できるページにいける。

3. 質疑

【参加者】最近散歩することがあり、気づいたのだが、同じような道路や交差点で街灯のあるところとないところがある。無いところはなぜついていないのか。

【市長】その理由までは今は分からないが、現場を見て必要であればどんな対応ができるか考えたい。

4. 閉会